



① 論語

金谷治訳注 岩波書店 1999 (岩波文庫)

② 洪沢栄一「論語」の読み方

洪沢栄一原著 竹内均編・解説 三笠書房 2004

③ 論語の教え

-孔子のことば・セレクト 119-

佐久協著 ベストセラーズ 2011

経営学部准教授 岩田 弘尚

洪沢栄一という人物を知っているだろうか？みずほ銀行、東京海上日動火災保険、東日本旅客鉄道、サッポロビール、帝国ホテル等、約 500 社の会社設立に携わり、近代日本の産業経済の礎を築いたのが洪沢栄一である¹。特筆すべきは、財閥を築いて利益を独占することをせず、世の中に広く配分した点である。洪沢栄一は、一橋大学、日本女子大学、聖路加国際病院を始めとする約 600 の教育機関・社会公共事業の支援並びに民間外交に尽力し、社会起業家の先駆者と言っても良い。資本主義が迷走し、ステークホルダー重視の経営が叫ばれる昨今、企業家のあるべき姿であるように思われる。

洪沢栄一の経営哲学は、「論語と算盤」²という言葉に集約される。すなわち、「道徳（論語）と経済（算盤）の合一」であり「義と利の両全」である。近年では、

ほぼ毎日のように企業不祥事が紙面を賑わしているが、それは己の算盤のみ追求したことが原因である。洪沢栄一は、『論語』を拠り所にして、道徳と経済は一見すると釣り合わないように見えるが実は両立するものであり、また、自分たちの経済活動が国全体の利益にも繋がると考えて実践していたのである。

ところで、『論語』について、どのようなイメージを抱いているだろうか？「子曰、学而時習之、不亦説乎…」漢文の授業で随分と苦勞した記憶がよみがえってくる学生も多いはず（私もその一人！）。しかし、『論語』は実はとても面白い「総合的な人間学」の書である。閉塞感の漂う現代において、心豊かによりよく生きるにはどうしたらよいか。人生への取り組み方、自分の長所を磨き育てる工夫、良い人間関係の築き方など、読む度に目から鱗が落ちる。これを機に、推薦した解説書から構わないので、『論語』に改めて触れてみて欲しい。『論語』には、2500 年間も変わらない「生き方」についての不変の真理が含まれている。

「子曰、志於道、據於徳、依於仁、游於藝」（述而第七の六）。

1 洪沢栄一について興味を覚えた学生には、自伝『雨夜譚』洪沢栄一述 長幸男校注 岩波書店 1984 (岩波文庫) をオススメする。

2 『論語と算盤』洪沢栄一述 梶山彬編 国書刊行会 1985